

第1回 サイバーポート検討WG（港湾・貿易手続）議事録

【日 時】 平成30年12月20日（木）13:00～14:26

【場 所】 中央合同庁舎第3号館 11階 特別会議室

【議事内容】

- （1）サイバーポート検討WG（港湾・貿易手続）について
- （2）港湾・貿易手続の実態把握について
- （3）港湾関連データ連携基盤の方向性について

事務局である港湾局から（1）～（3）の議題について続けて資料説明を行い、WGの位置づけ、港湾・貿易手続の実態把握、港湾関連データ連携基盤の方向性について確認した。

各委員からのコメント及び回答は以下のとおり。

- 〈A 委員〉今後のこのワーキンググループでの整理の見通しや、こういったアウトプットというのを期待されようとしているのか。
- 〈事務局〉データ連携基盤の活用によるデータ処理の簡素化や、データの利活用による付加価値の高いサービス創出等について整理したい。
- 〈B 委員〉もし全ての関連業者が100%連携基盤を使った場合、日本から出る輸出入の貨物情報が全て連携基盤に蓄積され、ここから色々な統計情報がとれるという理解でよろしいか。
- 〈事務局〉企業情報の秘匿性、匿名化というのは十分考慮した上で、統計処理していくことができればご指摘のような活用方法もあると思うが、これから検討していく中でもう少し整理させて頂きたい。
- 〈C 委員〉データ連携基盤でデータ化される情報の中にはコンテナ総重量も含まれているのか。
- 〈事務局〉事業者がやりとりする情報の中に含まれるのであればデジタル化の対象になる。
- 〈B 委員〉コンテナ総重量の電子化については私どもの方からも事前に提案させて頂いた。
- 〈D 委員〉コンテナ総重量については、輸入は関係ないという理解でよいか。
- 〈事務局〉事務局としては、輸出と輸入と両方入ると理解している。
- 〈E 委員〉データ連携基盤の導入によりコンテナターミナルでのゲート待ちが幾らかでも解消できるのではないかと期待している。
- 〈F 委員〉次回ワーキングと推進委員会の間のスケジュールがタイトだが、ワ

ーキングでの検討内容を推進委員会に報告する前には、我々の中でも検討させていただくための十分な時間を頂戴できるよう、ご配慮いただきたい。

〈座長〉 推進委員会に上げる前にワーキングでもしっかり議論するような進め方を事務局にはお願いしたい。

〈事務局〉 スケジュールに関してはまた別途ご相談させていただきたい。

〈D 委員〉 来年度予算でA I ターミナルを実現するための取り組みを進めているとのことだが、データ連携基盤とA I ターミナルの話はどのようにつながっていくのか。

〈事務局〉 データ連携基盤とA I ターミナルとが相互連携をしながらハード、ソフト一体となって整備していく。

〈G 委員〉 ターミナル側のシステム改修についてはやはり各ターミナルの事業者、民間事業者、もしくはその港湾の管理者の努力が必要という理解でよろしいか。

〈事務局〉 データ連携基盤は各社のシステムは基本的にそのまま、接続すれば使えるようになるというもの。接続は基本的にスムーズに行くものと考えているが、もう少し勉強をさせていただきたい。

〈H 委員〉 海コンドレージのドライバーに対しては、実務上は今後も必ず書類を印刷して持っていくことになろうかと思う。これと電子化とは全く別のことだということを、ご認識いただきたい。

〈事務局〉 デジタル化しないほうがいいものまで強硬にデジタル化するということは考えていない。

〈I 委員〉 最小単位のデータは何なのか、コンテナ単位なのか個別の商品単位なのかということをもっと明らかにしたほうがいいのではないか。

〈事務局〉 どちらかといえば商品単位とコンテナ単位がうまく紐づけされるのだろうと考えている。

〈J 委員〉 スケジュール表にコンテナ以外にも拡大と書かれているが、在来船業務についても続けて検討するということか。

〈事務局〉 拡げていきたいと考えている。

〈B 委員〉 経済産業省がデータ共有プラットフォームを使って、一連の船積み業務の電子化の実証実験をすると聞いているが、これと今回の取り組みとの関係性を教えていただきたい。

〈事務局〉 互いに調整しながら重複がない形で進める方針であり、実証事業の中で得られる成果については、データ連携基盤でも活用させていただきたいと考えている。

〈H 委員〉いま自社システムを保有しない事業者というのはどんな事業者を想定されているか。

〈事務局〉一般論としてシステム開発するよりも紙による手続のほうがコストが安いと考えているような事業者を想定している。

（４）今後のスケジュール

今後、実態把握に向けたアンケート調査へのご協力をお願いするとともに、その結果を整理した上で、データ連携基盤の要件、仕様の案を検討、来年２月を目途として第２回ワーキングで、その結果の整理結果やデータ連携基盤の全体像を示す予定。